

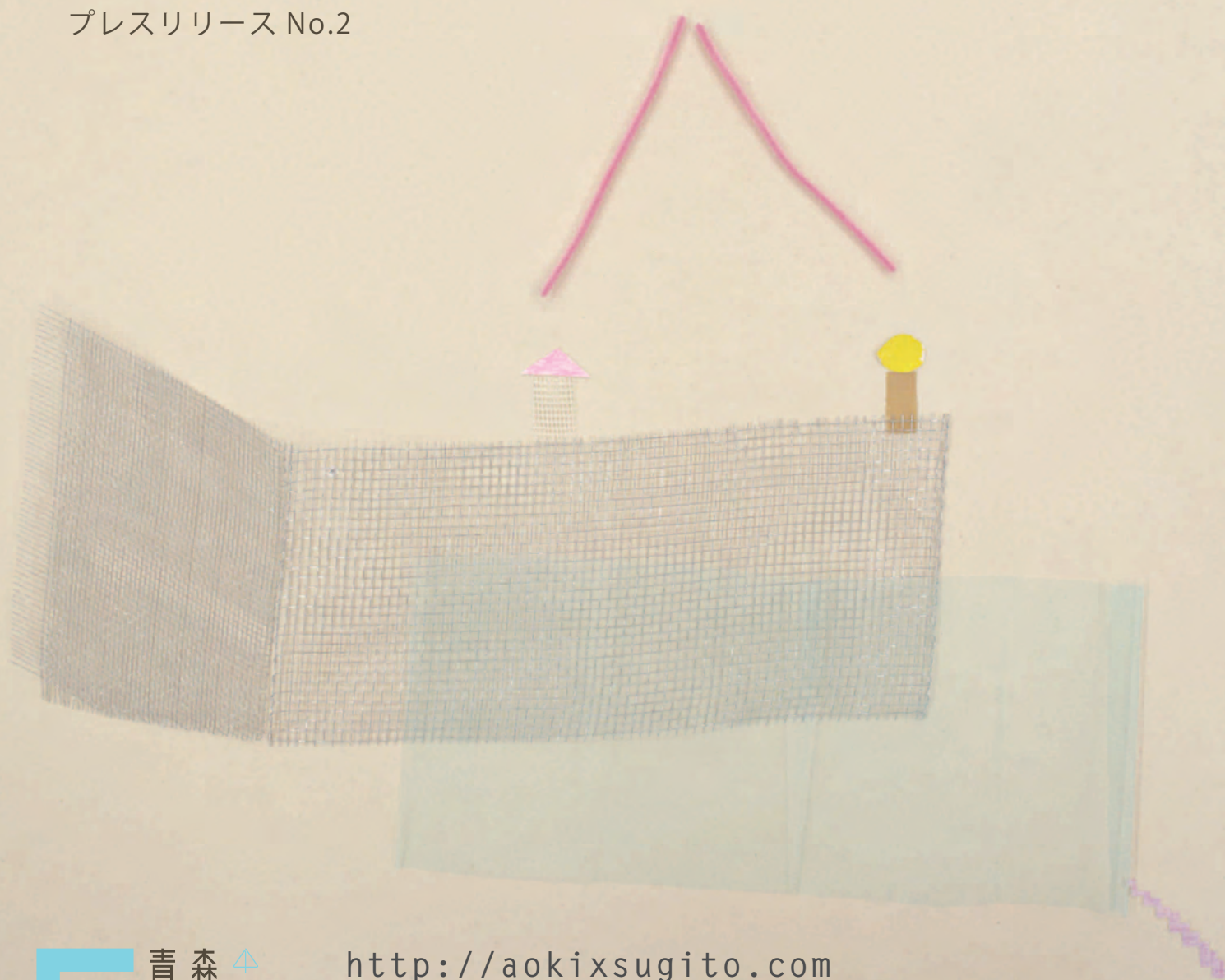
青森県立美術館開館 5 周年記念展

青木淳 × 杉戸洋

はっぱとほらっぱ

cobweb and spider

プレスリリース No.2



開催概要

青森県立美術館は今年開館 5 周年を迎えます。この節目の年に、美術館の建築に光をあてた展覧会を開催します。

青森県立美術館をはじめ、個人住宅、商業施設など、多岐にわたって独創的な設計を行ない、高い評価を得てきた建築家・青木淳、絵画の新しいありようを提示し、国内外で注目されてきた画家・杉戸洋。二人のアーティストが、青森県立美術館の空間の魅力を存分に味わってもらうため、建築と美術の垣根をこえて展示を作り上げる、これまでにない趣向の建築展です。

青木淳 × 杉戸洋

はっぱとはらっぱ

会場：青森県立美術館

会期：2011 年 4 月 23 日（土） - 6 月 12 日（日）

※休館日：5 月 9 日（月）、5 月 23 日（月）

開館時間：4 月 23 日 - 5 月 31 日 9:30-17:00（入館は 16:30 まで）
6 月 1 日 - 6 月 12 日 9:00-18:00（入館は 17:30 まで）

主催：青木淳 × 杉戸洋展実行委員会（青森県立美術館、東奥日報社）

協賛：SHI/EIDO

特別協力：AIBAKA 平岡織染株式会社、TRUSCO トラスコ中山株式会社

協力：青森県テント・シート工業組合、金箱構造設計事務所、黒沢建設株式会社、小岩金網株式会社、小山登美夫ギャラリー、北斗建設株式会社、ミナ ペルホネン、株式会社森村設計、Easy Living

後援：青森県教育委員会、NHK 青森放送局、J R 東日本 盛岡支社、社団法人日本建築学会東北支部青森支所、社団法人青森県建築士会、社団法人青森県建築士事務所協会、社団法人日本建築家協会東北支部青森地域会、あおもりデザイン協会、新建築家技術者集団、Ahaus 編集部、あおもりインテリアコーディネーター倶楽部、NPO harappa

観覧料：

「はっぱとはらっぱ展」 「常設展とのセット券」

一 般 1,100 円（900 円） 一 般 1,400 円（1,200 円）

高・大生 600 円（500 円） 高・大生 800 円（700 円）

小・中生 300 円（200 円） 小・中生 350 円（250 円）

※（ ）内は 20 名以上の団体割引料金

※ 心身に障がいがある方と付添者 1 名は無料

★ 大学、工業高等専門学校、高校、専門学校等で、建築を学んでいる学生の方は、在籍する学科を証明できる学生証等をご呈示いただくことで、団体割引料金でご観覧いただくことができます。



1. 青木淳 《青森県立美術館》 2006 年 © 阿野太一

アクセス：

昨年 12 月、東北新幹線全線開業！！

青森県立美術館へのアクセスがより便利に。

今年 3 月 5 日には、東京～新青森間最短 3 時間 10 分で結ぶ
東北新幹線「はやぶさ」デビュー！！ ※1 日 2 往復運行

■ [新幹線駅] 新青森駅から

・車で約 10 分

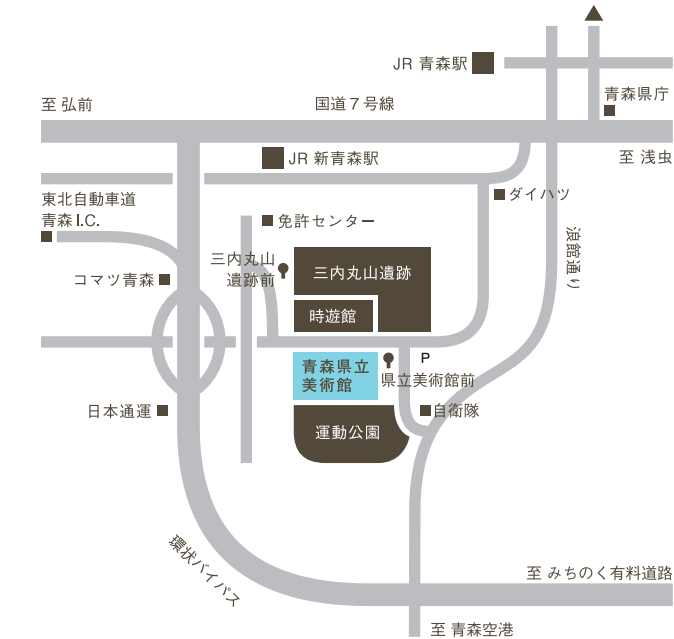
・ルートバスねぶたん号（左回り）新青森駅南口バス停から乗車
「県立美術館前」下車（所要時間約 10 分）

■ 青森駅から

・青森市営バス青森駅前 6 番バス停から乗車、運転免許センター行き
「県立美術館前」下車（所要時間約 20 分）

■ 青森空港から車で約 20 分

■ 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分



作家略歴

青木淳 あおき・じゅん

1956 年横浜市生まれ。82 年東京大学大学院修士課程修了。83 ～ 90 年磯崎新アトリエに勤務後、91 年に青木淳建築計画事務所を設立。個人住宅をはじめ、公共建築から商業施設まで、多岐にわたる独創的な設計が高い評価を得てきた。

初期の代表作としては、プール施設「遊水館」（1993）、第 8 回くまもと景観賞を受賞した「馬見原橋」（1995）、日本建築学会作品賞を受賞した「潟博物館」（1997）がある。

「ルイ・ヴィトン 名古屋栄店」（1999）に始まる、「ルイ・ヴィトン 表参道店」（2002）、「ルイ・ヴィトン ニューヨーク フィフス アヴェニュー」（2004）など、ファッションブランド「ルイ・ヴィトン」の一連の店舗で取り組んだ設計では、モアレの効果を利用した知性あふれる瀟洒な外装が「ルイ・ヴィトンの顔を変えた」と言われる。

2000 年に行われた青森県立美術館の設計競技では、393 件の応募の中から、最優秀賞に輝いた。青森県立美術館は 2005 年に竣工、翌年 7 月に開館した。

近年では、アートの領域にも活躍の幅を広げ、『現代美術への視点 連続と侵犯』展（2003、国立国際美術館）にアーティストとして参加し、2009 年には Taro Nasu 画廊（東京）で個展『夏休みの植物群』を開催した。また 2010 年春に竣工した集合住宅「Maison AoAo」（吉祥寺）では、彫刻家・青木野枝の作品を取り入れた設計が、大きな話題をよんだ。現在、「大宮前体育館」のプロジェクトが進行中。

2004 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

杉戸洋 すぎと・ひろし

1970 年名古屋市生まれ。父親の仕事の関係で、4 歳から 14 歳までの約 10 年間をニューヨークで過ごす。帰国後美術大学への進学をめざし、通っていた予備校で、アルバイトの講師をつとめていた奈良美智と出会う。

入学した愛知県立芸術大学では、近代日本画の線や色彩の美しさにひかれて、日本画を専攻する。91 年に名古屋市で初個展を開催。92 年愛知県立芸術大学日本画科卒業。

美術家としての積極的な活動の展開は、90 年代後半に入ってから。小山登美夫ギャラリー（96 年～）、ケンジ・タキギャラリー（99 年～）などでコンスタントに発表を続け、アメリカやヨーロッパのギャラリーでも個展を重ねている。

98 年 VOCA 展奨励賞受賞。「既成の表現様式とはまったく無関係に、自己の感性を素朴なかたちで表現し」、「自己固有のイメージ世界をもっている」点が評価された。その翌年、時代と結びついたテーマで同時代のアーティストを紹介し、毎回話題をよぶ東京都現代美術館の「MOT アニュアル」シリーズの第 1 回、「ひそやかなラディカリズム」展（1999）に出品した。

アクリル絵具や顔料で塗られた淡く繊細な色彩が満たす広大な背景に、身の周りの具体的な物から想を得た極小のモチーフを描き込み、特異なパースペクティブを構築する杉戸の絵画。現実の延長の中に異空間を描き出すことで、絵の新たなありようを提示してきた。近年では、ヴァンジ彫刻庭園美術館（2006）、テキサスのフォートワース美術館で（2006）個展を開催。「第 8 回イスタンブールビエンナーレ」（2003）、「第 7 回光州ビエンナーレ」（2008）などの国際展に日本を代表するアーティストとして選ばれるとともに、原美術館「ウィンター・ガーデン：日本現代美術におけるマイクロポップの想像力の展開」（2009）、国立国際美術館「絵画の庭」（2010）など、現代絵画の動向を分析する重要な展覧会に出品作家として名を連ねている。作品は、東京都現代美術館、愛知県美術館、国立国際美術館などの国内の公立美術館や、サンフランシスコ近代美術館、エッセンのオルブリヒト・コレクションなど、海外の有数の現代美術のコレクションに収められている。



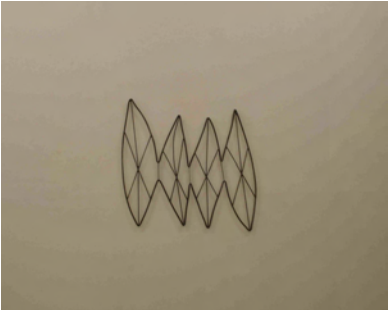
2. 青木淳《ルイヴィトン 表参道店》2002 年 © 阿野太一



3. 青木淳《Maison AoAo》2010 年 © 阿野太一



4. 杉戸洋《first lightning》2008 年 84×36×9cm
板・アクリル、ラメ © Hiroshi Sugito



5. 杉戸洋《four leaves (はっぱ)》2008 年
77.2×81cm 鉄 © Hiroshi Sugito

コンセプト

青木淳と杉戸洋にとって、ひとつの建築もひとつの絵画も、完結することなく、常に少しずつ生まれ変わっていくものです。それらは、いつも、いろいろな可能性に向かってひろがっている「テストピース」なのです。では、今回、青森県立美術館の、どんなフレームのなかに、どんな風景のなかに、どういうつながりを張るのか。それは今後、それぞれの作品を作っていく上での「スタディ」とも言えるものです。

みどころ

■ 建築家と画家の緊密なコラボレーション

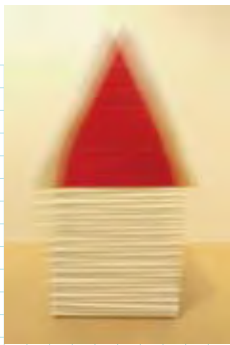
青森県立美術館をくまなく、いくどとなく歩き、展示のアイデアを出しあってきた青木淳と杉戸洋。そのコラボレーションによって生まれる作品が展示されます。たとえば、美術館の屋外に設置される「ぼよんな小屋」。当初青木が計画していたものの、結局は実現しなかった青森県立美術館の滞在アトリエのプランと、杉戸のランドスケープのヴィジョンが重なることで、まぼろしのような小屋が出現し、美術館のあらたな風景を作り出します。

■ 青森県立美術館のもうひとつの顔

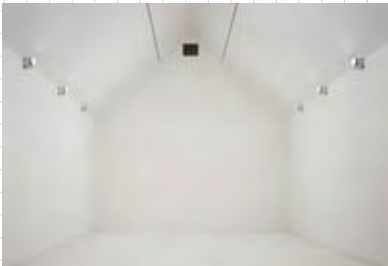
展示室にとどまらず、屋外空間や普段は一般の人々が足を踏み入れることのないバックスペースまで、青森県立美術館全体を使う展覧会です。展示ルートも通常とは異なります。忘れられた路地のような空間に出会ったり、現代彫刻を思わせるようなダイナミックな空間に突然抜け出たりする体験が待っています。青木淳がこだわった設計の秘密が見えてきます。



6. イメージのやり取り図



7. 青木淳〈ぼよんな小屋、イメージ模型〉
2010年 ©青木淳建築計画事務所



8. 青木淳〈青森県立美術館〉2006年 ©阿野太一



9. 青木淳〈ハترون紙の家、イメージ模型〉
2010年 ©青木淳建築計画事務所

■ 青木淳にとっての「青森県立美術館」ができるまでとそれから

2000年にコンペで選ばれてから2005年竣工にいたるまで、青森県立美術館建設の道のりは平坦なものではありませんでした。変更を余儀なくされた設計、実現されなかった設計なども含めて、青森県立美術館のできるまでを、建築模型や図面、写真などで紹介します。また、この美術館を手がけたことが、その後の青木淳の設計に大きな影響を与えています。最新の青木の仕事を紹介しながら、青森県立美術館で形になったアイデアが、その後どのように展開されているのか、ご覧いただきます。

■ 響きあう絵と風景

杉戸洋ほど自らを取りまく環境に丹念に触れながら絵画を生み出す画家はいないでしょう。その場で感じた光、大気、目にしたもの、そして関わる人との記憶が、杉戸の絵に大きな影響をおよぼしています。青森県立美術館をいくどか訪れる中で蓄積されていったそれらの体験を、深く内面にあたためることで描き出される絵画は、青森県立美術館という環境に息づき、そこから立ち現れる風景の中で静かに語り始めます。風景と絵画の豊かな響きを会場でご体感ください。

■ 幻のコンペ案実現！！ 舞台背景画「アレコ」をシアター席で鑑賞

青木淳の設計案が最優秀賞に輝くことになった決め手のひとつは、シャガールの「アレコ」の、そのドラマチックな展示方法でした。「アレコ」が展示されるホールとシアターを隣合わせ、その間の壁を可動にし、それら二つの空間をつなげることができるようにする。それが建築家の提案でした。そうすることによって、シアターの舞台裏の壁が開け放たれ、舞台背景画として制作された「アレコ」が、まさに「舞台の背景」として観賞できるのです。しかし、この展示の仕方は、開館来、運営上の理由から実現の機会をみずにきました。その幻のコンペ案を今回の展覧会にあわせて実現します。

※ マルク・シャガールによる舞台背景画「アレコ」について

ロシア生まれのユダヤ人で、20世紀を代表する画家であるマルク・シャガール（1887-1985）が1942年に、亡命先のアメリカで制作したバレエ「アレコ」のための舞台背景画。全4幕から成る舞台背景画中、第1幕、第2幕、第4幕を青森県立美術館が収蔵し、美術館の中心にある「アレコホール」に展示している。縦約9m、横約15mの大画面に、「色彩の詩人」とよばれるシャガールの本領がいかに発揮されており、観るものを圧倒する。

□ カタログ

カラー約120ページのカタログを発行。展示作品、展示風景、スケッチなどを、二人のアーティストが自ら撮影し、ページ構成します。また、現代美術批評の第一線で活躍する清水穰氏のテキストを掲載。展覧会の全貌と作家の創造世界、そして青森県立美術館の目指すものが、一般の人々にわかりやすく伝わるカタログを製作、頒布します。



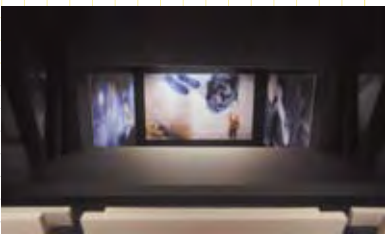
10. 青木淳〈青森県立美術館のためのアトリエ・スタディ模型〉
2001年 ©青木淳建築計画事務所



11. 杉戸洋〈「はっぱとはらっぱ」のためのアクリル画〉
2011年 ©Hiroshi Sugito



12. 杉戸洋〈「はっぱとはらっぱ」のための油彩画〉
2011年 © Hiroshi Sugito



13. 青木淳〈青森県立美術館、コンペ応募案〉2000年
©中川敦玲

イベント

アーティスト対談

- (1) 青木淳 × 杉戸洋
日時：4月23日(土) 14:00-15:30
- (2) 杉戸洋 × 奈良美智（美術家）
日時：5月1日(日) 14:00-15:30
- (3) 青木淳 × 妹島和世（建築家）
日時：5月2日(月) 14:00-15:30

場所：青森県立美術館 アレコホール

- ※ 申込不要
- ※ 聴講無料ですが、当日の企画展が常設展のチケットが必要です。
- ※ 先着 200 名
当日 13:00 から整理券を配布します。
詳細は、実行委員会事務局へお問い合わせください。
- ※ 開場は対談開始 30 分前

妹島和世 セジマ・かずよ

1956年茨城県生まれ。1981年日本女子大学大学院修了後、1981年～87年まで伊東豊雄建築設計事務所勤務。1987年に独立し、妹島和世建築設計事務所を設立する。1995年、西沢立衛と共に「SANAA」を設立。1992年「再春館製薬女子寮」で新日本建築家協会新人賞、1996年「岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）マルチメディア工房」で日本建築学会賞を受賞。2004年、SANAA設計の「金沢21世紀美術館」でヴェネツィア・ビエンナーレ第9回国際建築展の金獅子賞を受賞。2010年第12回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。また同年、建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞を、西沢立衛と共同受賞。現在、SANAAで手がけるルーヴル美術館ランス分館のプロジェクトが、2012年のオープンに向けて進行中。

奈良美智 なら・よしと

1959年青森県生まれ。愛知県立芸術大学大学院修了後、1988～1993年まで、ドイツの国立デュッセルドルフ芸術アカデミーで学ぶ。2000年帰国。2001年個展「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME」が横浜美術館を皮切りに国内5ヵ所を巡回。2004年杉戸洋との二人展「Over the rainbow」がミュンヘン他ドイツ国内を巡回。2006年創作ユニットgrafとのコラボレーションによる展覧会「A to Z」が、青森県弘前市で開催された。2010年米文化に貢献した外国出身者をたたえるニューヨーク国際センター賞を受賞。2010年から翌年にかけて、ニューヨークのアジア・ソサエティー美術館で大規模な個展「Nobody's Fool」が開かれ、大きな話題をよんだ。青森県立美術館では約170点におよぶ奈良美智作品を収蔵し、一部を常設展示で公開している。

Yok LIVE

杉戸洋がCDのジャケットを手がけたシンガーソングライター・Yokのライブを行います。
日時：5月1日(日) 13:00-（予定）
場所：青森県立美術館内
※ 詳細は決まり次第、展覧会ホームページ等でお知らせいたします。

伊藤ゴロー + naomi & goro LIVE

青森市出身のミュージシャン伊藤ゴローとボサノヴァユニット「naomi & goro」のライブを行います。
日時：5月2日(月) 18:00開場 18:30開演（予定）
場所：青森県立美術館 アレコホール
※ 詳細は決まり次第、展覧会ホームページ等でお知らせいたします。

演劇：「津軽」青森公演

青森県芸術・文化力首都圏発信事業

原作：太宰治

潤色・脚本・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
場所：青森県立美術館野外特設ステージ
日時：4月30日(土)、5月1日(日)、5月3日(火)、
5月4日(水)、5月5日(木)
全日 18:30～[5月2日(月)は休演日]

★常設展及び企画展・特別展の割引

演劇『津軽』のチケット（使用済み・未使用問わず）をお持ちの方は、青木淳 × 杉戸洋展及び常設展を団体割引料金でご鑑賞いただけます。なお、チケットは展覧会受付にてご提示ください。
↓ チケット情報など、詳しくはHPをご覧ください
<http://aomori-museum-pa.jp>

ワークショップ：バーチャルリアリティマップをつくる

隣接する三内丸山遺跡に着想を得て設計された青森県立美術館。この美術館には、順路がなく、まるで迷路のような空間が広がります。どうしてこのような構造になっているのでしょうか？このワークショップでは、美術館建築の秘密を知るバックヤードツアーを体験したあと、デジタルカメラを片手に美術館を散策し、その見どころを紹介するバーチャルリアリティマップをつくります。本展開催に伴い変化した美術館を体感しながら、その魅力について考えてみましょう。

日時：①5月14(土) ②5月15日(日) 両日とも9:00-16:30
場所：青森県立美術館内
講師：小久保温（青森大学ソフトウェア情報学部准教授）
対象：高校生以上
定員：10名
参加料：はっぱとはらっぱ展チケット
持ち物：昼食、デジタルカメラ、三脚（お持ちであれば）
申込：電話、Fax ※定員に達し次第締め切らせていただきます。
申込受付期間：4月12日～5月7日
協力：青森大学ソフトウェア情報学部
※ 詳細は青森県立美術館教育普及担当TEL 017-782-1919まで。

会期中の県内アート・観光情報

アート情報

■ 青森公立大学国際芸術センター青森（Tel 017-764-5200）
「中西信洋展 透過する風景 ―Transparent view―」（仮）
4月23日(土)～6月19日(日)



中西信洋〈Layer Drawing Cloud〉2005年

■ 十和田市現代美術館（Tel 0176-20-1127）
「マイケル・リン展」（仮）
4月29日(金・祝)～8月28日(日)



マイケル・リン、ATRIUM, STADHUIS 12.07-12.09.2002

2002年 emulsion on wood 5000×2000cm

Stroom-City hall of The Hague, Netherlands

■ 三沢市寺山修司記念館（Tel 0176-59-3434）
「森山大道写真展『あゝ、荒野』」
4月5日(火)～7月24日(日)

■ 棟方志功記念館（Tel 017-777-4567）
「墨の世界 ―文字と書―」
3月15日(火)～6月12日(日)

■ 七戸町立鷹山宇一記念美術館（Tel 0176-62-5858）
「巨匠たちの素顔と魅力 ～パレット&絵画～」展（仮）
4月17日(日)～6月5日(日)

青森デスティネーションキャンペーン
2011年4月23日-7月22日
さらに詳しい情報は青森DCホームページをご覧ください。
<http://www.aomoridc.com>

観光情報

■ 弘前さくらまつり @弘前公園（弘前市）
4月23日(土)～5月5日(木・祝)
日本一の規模を誇る弘前公園の桜。約2,600本の桜が園内を埋め尽くす。夜は特別照明でライトアップ。今年は弘前城築城400年を記念するイベントも行われる予定。
【問】弘前市観光物産課 Tel 0172-35-1128

■ 青森春まつり @合浦公園、野木和公園（青森市）
4月下旬～5月上旬
たくさんの露店が出店し、ぼんぼりが灯される。夜桜見物や「春の緑と花の市」も同時期に開催。
【問】青森春まつり実行委員会事務局 Tel 017-741-6634

■ 桜流鏝馬（さくらやぶさめ）@十和田市中央公園（十和田市）
[4月23日(土)、24日(日)]
全国から集まった女性騎士だけの「やぶさめ競技大会」。桜の下での馬車運行など、大人も子供も楽しめる。
【問】十和田乗馬倶楽部 Tel 0176-26-2945

■ 青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」
（青森市・青森駅より徒歩約2分）
2011年1月5日にオープン。ねぶた祭りの歴史や魅力を余すことなく紹介し、ねぶたのすべてを1年を通じて体感できる。
【問】Tel 017-752-1311



「ワ・ラッセ」外観

■ hacchi 八戸ポータルミュージアム「はっち」
（八戸市・本八戸駅より徒歩約11分）
2011年2月11日にオープン。アートやコミュニケーションなど、ジャンルを横断した創造活動を展開する場。レジデンス、シアター、ギャラリーを備えたマルチチャンネル型施設。
【問】Tel 0178-22-8228

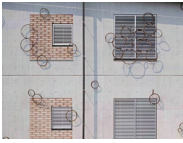
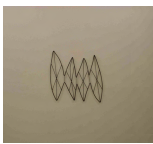
画像請求フォーム

はっばとはらっぱ

画像はデータでご提供いたします。希望される画像にチェックをいれ、媒体名、御社名、ご担当者、ご連絡先などをご記入の上、本用紙をファックスでお送りください。

to 青森県立美術館 広報担当行 (Fax 017 783 5244)

媒体名	
御社名	ご担当者
所在地	
電話	メールアドレス (データ送付先)

チェック欄	1	2	3	4
図版				
キャプション	青木淳《青森県立美術館》 2006 年 © 阿野太一	青木淳《ルイ・ヴィトン 表参道店》 2002 年 © 阿野太一	青木淳《Maison AoAo》 2010 年 © 阿野太一	杉戸洋《first lightning》2008 年 84×36×9cm 板・アクリル、ラメ © Hiroshi Sugito
チェック欄	5	6	7	8
図版				
キャプション	杉戸洋《four leaves (はっば)》2008 年 77.2×81cm 鉄 © Hiroshi Sugito	イメージのやり取り図	青木淳《ぼよんな小屋、イメージ模型》 2010 年 © 青木淳建築計画事務所	青木淳《青森県立美術館》 2006 年 © 阿野太一
チェック欄	9	10	11	
図版				
キャプション	青木淳《ハトロ紙の家、イメージ模型》 2010 年 © 青木淳建築計画事務所	青木淳《青森県立美術館のためのアトリエ・スタディ模型》 2011 年 © 青木淳建築計画事務所	杉戸洋《「はっばとはらっぱ」のためのアクリル画》 2011 年 © Hiroshi Sugito	
チェック欄	12	13		
図版				
キャプション	杉戸洋《「はっばとはらっぱ」のための油彩画》 2011 年 © Hiroshi Sugito	青木淳《青森県立美術館、コンペ応募案》 2000 年 © 中川敦玲		

プレスイメージ貸し出し条件

1. 画像は、本展紹介以外の目的で使用しないでください。
2. 画像データを第三者に渡すことはできません。使用后、データは消去してください。
3. 作品写真は全図で使用してください。部分写真やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
4. 写真を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。
5. 掲載誌（紙）は、一部下記広報担当あてにご寄贈ください。Web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。